

さみしい夜の句会報 第136号 (2023. 9. 24-2023. 9. 30)

- ◆ 参加者：しまねこくん、奥かすみ、石川聡、ダリア🌸、佐竹紫
円、石原とつき、daikey、小沢史、たろりずむ、燕雀之心、チヨ
ロメント・ブルー、鷺沼くぬぎ、syusyū、風を見たのは誰でしょう、
うう、鴻鵠之志、大北、西脇祥貴、しろとも、ともなう、あやめ、
雷(らい)、元さん、まつりべきん、雪井苑生、海馬、西沢葉火、
水の眠り、丸山修平、菊池洋勝、おかもとかも、鴨川ねぎ、のは
るん、みさきゆう、何となく短歌、片羽anju、雲雀、crazy lover、
池田突波、とるばーる、藤井臯、酔名、ひうま、萩原アオイ、
🌸、西沢葉火、上崎、阿笠香奈、温(ぬる)、さし、花野玖、古城、
透影弦、東ころ、鴻鵠之志、saki、のるはん、雪の空SO🌸、
流天、汐田大輝、うつわ、山田真佐明、踊る六郎と手毬唄の会、
りゅうせん、赤端独楽男、なまわい、雪夜彗星、馬勝、もふもふ、
蔭一郎、涼閑、円山すばる、にじいろのころ、ばさ、宮坂葵哲、
電車侍、銀浪、月波与生(七六名)

◆ 7・7、5・7・5 (川柳・俳句)

- 秋場所の力士で薄くなる酸素 しまねこくん
解脱しようよカルパッチョしようよ 藤井臯
覆水を盆に返して正常位 馬勝
月を待つ七三分けのひとばかり 蔭一郎
眠れずに読経する母小鳥来る 馬勝
いちめられ欠席の子の椅子冷ゆる syusyū
待宵をお降りの方は前のドア しまねこくん
ぺりぺりと剥がした月のいい匂い 海馬
満月に舌打ちさせて貰えませんか 藤井臯
日出郎と日出郎までの半マイル 西脇祥貴

それはあんたのおくのほそ道 西脇祥貴
鰯へ掛く童貞の精子かな 菊池洋勝
レントゲン写真に昨夜の満月 しろとも
満月の一日前に逢いにいく 東こころ

太腿を伝う残滓白い萩 ダリア 220

秒速で肉塊までも激突す 石川聡

曼珠沙華産まれる前は鳥でした 小沢史

ラジオから流れる思いサザン聴く 燕雀之心

セックスレス妻が発動その拒否権 チョコミント・ブルー

友だちと友だちごっこ九月尽 鷺沼くぬぎ

爽やかや言つて言はれしごめんなさい syusyu

俺は人恋しいから貫く脈絡 大北

満月を野暮に啜れる二元論 あやめ

先に書いた日記のとおり家を出た 雷

こすつたら鳴き声あげる握り飯 まつりぺきん

十六夜や座敷わらしの影法師 雪井苑生

鉄玉置浩二工場 西沢葉火

喉に刺さつたままの歴史 丸山修平

洗つても洗つてもまだ温いシャツ おかもとかも

子の刻の鳥の叫びを聞いたかい 鴨川ねぎ

満月ときみとわたしの鳥兜 片羽雲雀

十五夜やあなたが思ふほど僕は 池田 突波

月見団子食べれば過ぎる東寺かな ひうま

満月にあらゆる故意がふり向いて 上崎

みんな同じ月を見ている 阿筈香奈

被写体と知らず棚引く鱗雲 花野玖

くつきりと並ぶ靴下十三夜 さー

ほらどっこいやれやれやれの男伊達 鴻鶴之志

草刈りの鎌追われたる枯蟻螂 流天

虎バター対向車線を流れ来る 汐田大輝

秋うらら貫くほどの我もなし 鈴

メンヘラがへらへらしながらまといつく りゆうせん

秋風なんて褒められすぎて 赤端独楽男

夏終わりどこかで溶けたかき氷 なさわご

暑氣中り〇・二ミリの隙間から 雪夜彗星

付度のつもりが自虐九月尽 もふもふ

血天井から毒蜘蛛が降りて来る 宮坂変哲

空青し 竹刀にとまる あきあかね 電車侍

雨音と戦車の音を間違える 月波与生

セリヌンティウスの不謹慎な絆 与生

◆ 5・7・5・7・7 (短歌)

すこしだけ虹に似ている Gaffiti の文字が読めたら失う
すべて 海馬

食欲の出ない夜更けの侘しさを確かめるよう開けた冷蔵庫
奥 かすみ

木々の葉が囁くように揺れていてこれは秋風のかたちと気
付く 佐竹紫円

おそろおそろ媚薬な粘膜な平等な南極に始まる 石原とつ
き

割れた皿元に戻らず見せかけの態度言葉は不要産物
donkey

この道を行けばどうなるものなのか迷わず聞けよ行った人
から たろりずむ

アルバムを共に眺めて 見えた明日二人抱いた 夢はセピ
アに 鴻鶴之志

十五夜の昨夜の月が柔らかな雲に閉ざされ優しく包む 元
さん

真夜中の点滅信号 手をつなぎコンビニめざし渡っちゃっ
よね 水の眠り

仲秋に蝉の鳴き声聞きながら紅葉情報に耳が傾く のはる
ん

食卓に父が連れてきた海があるお椀から出る伊勢海老の足

みさきゆう

秋来ぬと思えぬほどにあつき日々空見上げつつ我が道を這
ふ 何となく短歌

ホルモンと井戸端会議真相は？不毛会議と呼ばれます

crazy lover

仲秋の月を一緒に見たかった私は見上げ君は見下ろす と
るぼーる

ひとかけも欠けることのないフルムーンの光を浴びて管巻
く酒クズ 酔名

らい 萩原 アオイ

叶うなら一生辛い思いしない所へ僕を連れて行ってよ

Take

細たるを投げ出してまで庇(かば)うのか口と目と鼻塗りつ
ぶしてく 古城

皓月は帰らぬ君を待ち侘びて無人の道を照らし続けた

透影 弦

いつだって 過渡期の今を綱渡り もうおしまいからはじ
まりになる saku

夜の街が泣いている子を連れていく優しく見える王子のも
とく 雪の空SOesA

蒸しパンが机の隅で丸くなる2匹の部屋に影が落ちてる

田山すばる

涼しさが寂しさになる月曜の朝の向こうの夏の残像 ぱさ

◆詩

雨だ

しばらくすれば止むという
水の流れる音がする
水を散らしてクルマが走る
しばらくすれば止むという
雨だ（風を見たのは誰でしょう？）

直感で好きになった人を

嫌いにならない

直感で嫌いになった人を受け入れるのに

時間がかかる（わたしのもんだい）

根底のキライが呑み込めない（ともなう）

満月頭の爺の bar

客人たちも

満月で

ぴかぴか眩しい

中秋の名月（温（こ））

かなしみは

いつも心に

あり続け

時々迷わせ

時々狂わせ

壊れかけには

しみ入る夜風

ソレでソレでと

虫が鳴いてる（にじろのハルマ）

◆作品評から

真夜中の点滅信号 手をつなぎコンビニめざし渡っちゃろう

よね 水の眠り

〜若いっていいわぁ と感じました。(Crazy Lover)

食卓に父が連れてきた海があるお椀から出る伊勢海老の足
みさきゆう

〜お椀の向こうに、海が見えました。(銀浪)

日出郎と日出郎までの半マイル 西脇祥貴

〜敷金は二億スーパー大家ちゃん (下野みかも)

かわるがわるおれを清書してくれないか おかもとも

〜生きているうちはずっと下書きで死んでから誰かが記録してくれたらそれが清書された「人生」なのかもしれない
せん。「かわるがわる」がいいね。(月波与生)

セリヌンティウスの不謹慎な絆 与生

〜(感覚的にいいねしたので)

調べるとモロスの友人で、意味が掴みませんでした。
宜しければ、お教え下さい。(流天)

自己愛のかたまりだろうか阿部定の境界線がわたくしにも
ある 水の眠り

〜「阿部定」の言葉にギョッとする、その時点で作品として成功している。(月波与生)

ホルモンと井戸端会議真相は？不毛会議と呼ばれます

crazy Lover

くなかなか答えがでないのでしょうか？

それとも、答えなど必要ないのでしょいか。むずかしいです
すね。(水の眠り)

新宿の消印残す中傷句 富永顕二

く川柳をやつてうんざりすることのひとつにやたら悪口
を言われることである。句会に行つては誹謗、大会に行つ
ては中傷、句集を出しては罵詈雑言と川柳人にはアレな人
が少なくない。(月波与生)